

## 交通アクセス



- 大阪モノレール彩都線：『阪大病院前』下車
- JR東海道本線（京都線）：JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- 阪急電鉄京都線：阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車
- Osaka Metro御堂筋線：北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車



## The University of Osaka Hospital Outline

### 大阪大学医学部附属病院 要覧



Live Locally, Grow Globally

# 2025



〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号 TEL. 06-6879-5111(代表)



THE UNIVERSITY OF OSAKA HOSPITAL





# 理念

大阪大学医学部附属病院は、  
良質な医療を提供すると共に、  
医療人の育成と医療の発展に貢献する。

## [医の先進性を志して150年余り]

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。  
阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。



緒方 洪庵

## 基本方針

- 患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- 高度な医療の実践と未来医療の開発
- 社会・地域医療への貢献
- 豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

## 患者さんの権利

- 人として尊重された医療を受けることができます。
- 安全で質の高い医療を受けることができます。
- 十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を聞くことができます。
- 自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- 個人の情報は保護されています。

## 患者さんの責務

- 本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話してください。
- 適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- 治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。

## Contents [目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務	02
高度急性期医療と先進医療の開発・研究を総合力と優れた安全の下で	03
病院長からのご挨拶	04
統合診療棟	05
「統合診療棟」について	05
統合診療棟の機能(各フロア)	06
コンセプトおよびマスタープラン	07
統合診療棟の機能(災害対策関連)	08
沿革	09
機構/職種別職員数/職員	11
資料	13
診療科別外来患者数/病棟フロア別入院患者数	
資料	15
臨床検査件数/手術件数/画像検査患者数/輸血検査件数/処方枚数/病理業務件数/リハビリテーション実施単位数/地域別入院患者数/治療件数/移植件数/院内がん登録件数/入院、外来抗がん剤調製件数/ドクターヘリ出動件数/分娩件数/血液浄化療法施行件数	
医療機関の承認・指定状況等	17
経理状況/未来医療の推進	18
構内建物配置図/階別配置図・病床数	19
トピックス	21
高度救命救急センターICUが大規模リニューアル/ダイバーシティ推進チームの結成/診療支援センターの新設	
大阪大学医学部附属病院へのご寄附のお願い	22



●病院機能評価認定証  
2022年1月に(公財)日本医療機能評価機構から最新基準(3rdG:Ver.2.0)に認定されました。



●ISO15189認定証  
2015年9月に(公財)日本適合性認定協会から認定承認されました。



●国際認証AAHRPP取得  
2022年12月に日本の病院で初めてAAHRPP(The Association for the Accreditation of Human Research Protection Programs, Inc.®)から認証を得ました。



●臨床研究中核病院承認通知書  
2015年8月に厚生労働省から再指定を受けました。



●がんゲム医療中核拠点病院指定書  
2023年3月に厚生労働省から再指定を受けました。



●大阪府難病診療連携拠点病院指定書  
2018年11月に大阪府から指定を受けました。



●外国人患者受入れ医療機関認定制度(JIMP)認証書  
2022年3月に(一財)日本医療教育財団から再認められました。



●ISO13485認定証  
2023年6月に日本の病院で初めて英国規格協会(BSI)から認証を得ました。\*材料部において取得





## 高度急性期医療と先進医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

### 【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



### 【研究】未来医療の開発・実践

- 社会との接点である附属病院の機能を活かし、先進的な医療の開発・導入を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ活用実証事業の推進。

### 【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- がんゲノム医療の推進。
- 難病ゲノム医療の推進。

### 【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

### 【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制(インバウンド)と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制(アウトバウンド)、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育(国際医療/グローバルヘルス研究・教育)を積極的に推進し整備する。

### 【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

### 病院長からのご挨拶

## 最良の医療を皆様に提供できる、 未来に向けて持続的に発展する 病院を目指して

大阪大学医学部附属病院

病院長 野々村 祝夫



大阪大学医学部附属病院の基本理念は「**良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する**」ことであり、その基本方針は、①患者さん本位の安心・安全な全人的医療の提供、②高度な医療の実践と未来医療の開発、③社会・地域医療への貢献、④豊かな人間性を持った優れた医療人の育成です。本院の職員一同が本理念の元、この基本方針を実践すべく日々の診療に当たっております。

基本理念にある「良質な医療」というのは、患者さんが安心して受けられる安全かつ高度な最新の医療です。私たち阪大病院のスタッフは、全ての診療科、部門において通常診療のみならず、がん診療、循環器診療、さらには再生医療や移植医療まで全ての領域において高度な最新医療を患者さんに安全に届けるために、診療科横断的、職種横断的なチーム医療を広く取り入れています。また、阪大病院は患者さんに最新の医療を届けるとともに、新規医療技術や新規医薬品の開発を目指して、研究や教育にも注力しております。これらの努力の結果、2015年に医療法上に位置づけられる「臨床研究中核病院」に指定されました。また、2018年にはがんゲノム医療がスタートし、阪大病院は「がんゲノム医療中核拠点病院」の認定を受けました。さらには、内閣府の主導する「AIホスピタル」事業における採択拠点として診療科横断的に医療AIの実装化に取り組んでいます。医師のみならず、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師などさまざまな医療職の育成を行っています。

2020年から始まった新型コロナウイルス感染症蔓延の中で、阪大病院は重症患者受け入れ施設として、大阪府からの要請に応えつつも、手術件数を減らすことなく、高度な医療を患者さんに提供し続けられた事は、まさに医療における「最後の砦」となり地域医療に貢献できたものと大変誇らしく思います。

最後に、今年完成した統合診療棟について述べさせていただきます。統合診療棟は「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもとに構想から実に12年の歳月をかけて完成しました。昨今の医療の進歩と高度化に対応するための診療機能のさらなる充実と患者さんの負担軽減を目指したものです。この新棟は外来、中央診療施設、病棟機能を併せ持ち、高機能な手術室や低侵襲施設、総合周産期母子医療センター、アイセンター、患者包括サポートセンターなど機能強化部門が整備されることで、診療機能が格段に向上すると期待されています。これまで以上に患者さんに寄り添い、素晴らしい医療を提供し、未来の医療を創造していきたいと思っております。



# 統合診療棟 (2025年5月7日開院)

## Integrated Care Building



# 大阪大学医学部附属病院 統合診療棟

## 「統合診療棟」について

本院では、高度で安全な医療を通して、患者さんに安心と満足を提供することを目指して日々の診療を行っています。1993年に中之島から吹田へ移転してから30年以上が経過したこともあり、老朽化や狭陰化が目立つようになってきました。

そこで、本院に課せられた、良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献するという使命を果たすべく、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもと、2013年に再開発計画を始動しました。

地中障害物の撤去による工期延長や社会情勢の影響による建築費の高騰などさまざまな困難に直面しましたが、12年の月日を要し、ようやく現病院の北側に新棟である「統合診療棟」が

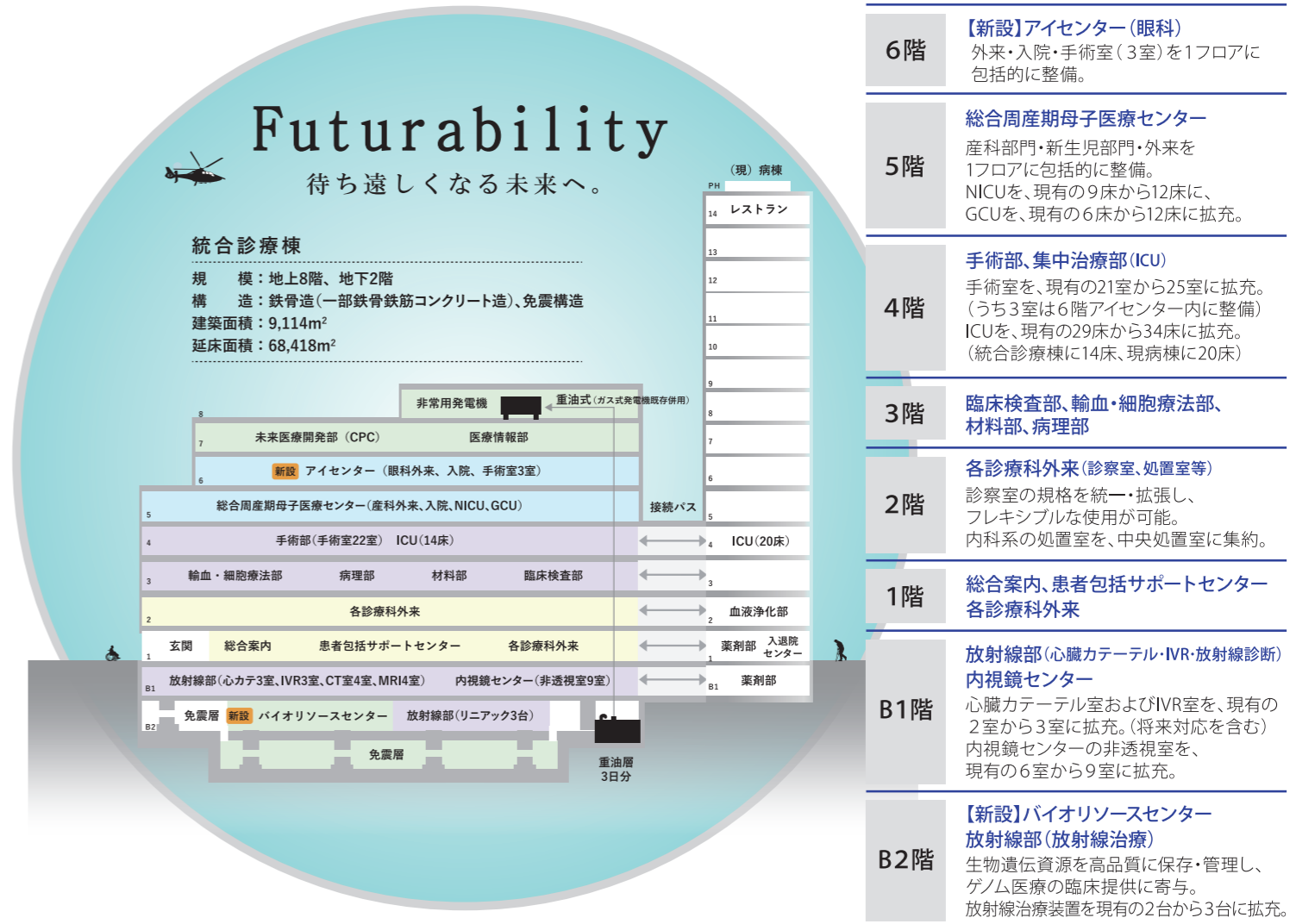
完成し2025年5月7日に開院しました。

新棟には、外来診療施設、手術部などの中央診療施設のほか、総合周産期母子医療センター、アイセンターなど病院の高度機能を支える部門が設置されています。

また、大学病院でしかできない臨床医学研究・開発のための未来医療センターやバイオリソースセンターといった収益に結びつかない将来の医療に必要な部門も含まれており、これまで以上にすばらしい診療体制が整うこととなります。

今後は、新病棟の整備も行うことを予定しており、より一層発展した医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうかご期待していただきたいと思います。

## 【統合診療棟の機能(各フロア)】



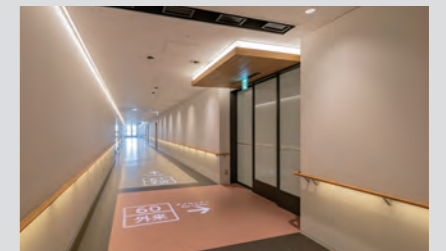
### 4階手術室

各手術室は7.5m×8.5mを基本に構成し、さまざまな診療科の手術に対応すると共に、多くの医療機器を配置できる余裕のある汎用性の高い手術室としている。



### 5階NICU

NICU (Neonatal Intensive Care Unit・新生児集中治療室)は9床から12床とし、うち1床は重症対応の個室として計画。壁および天井には、赤ちゃんに直接風が当たらないよう放射空調パネルを採用。



### 6階アイセンター廊下

【光がたぐ世界一のアイセンター】をコンセプトに、光を効果的に利用した内装計画としている。(ゴボ照明による床上エリアサイン、照明内蔵手すり、天井部間接照明等)



### [コンセプトおよびマスタープラン]

#### コンセプト **Futurability** 待ち遠しくなる未来へ。

将来構想

- インテリジェントメディカルコミュニティを通じて、地域を支える
- 垣根を越えた横断化医療、徹底した個別化・専門化医療のもと、世界をリードする高度医療を推進する
- Physician Scientist、Medical Innovatorを育成し、未来医療の発展・国際化に貢献する
- アカデミアの結集と産学連携により、橋渡し研究、臨床研究の世界的拠点となる
- 倫理・安全・ITが全てを支える

担うべき役割

- 医療人育成 ●臨床研究中核病院 ●がんゲノム医療 ●高度急性期 ●臓器移植 ●地域がん拠点病院
- 地域災害拠点病院 ●高度救命救急センター ●総合周産期母子医療センター

マスタープラン

- ①患者を中心に考えた安心、安全な建物計画、配置計画、動線計画
- ②手術室の機能強化を核とし、関連部門の最適な配置・動線計画
- ③教育・研究・診療拠点機能(学生教育・臨床研修病院、臨床研究中核、がん拠点、がんゲノム、臓器移植、災害拠点、総合周産期)の機能強化
- ④センター化(垣根を越えた横断化医療、徹底した個別化・専門化医療)に適した配置計画
- ⑤安定的な経営基盤の構築



▲2021年 工事現場航空写真



▲2023年6月 B2階 リニアック躯体施工状況



▲2024年3月 工事用タワークレーンクライミング風景



▲2024年4月 6階 スラブコンクリート打設完了



▲2024年8月 B1階 MRI壁工事



▲2024年 工事現場航空写真



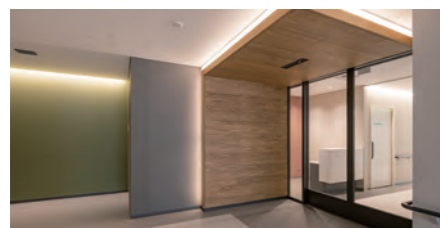
▲2025年 統合診療棟正面



▲1階 外来ホール



▲3階 光庭



▲4階 家族待合

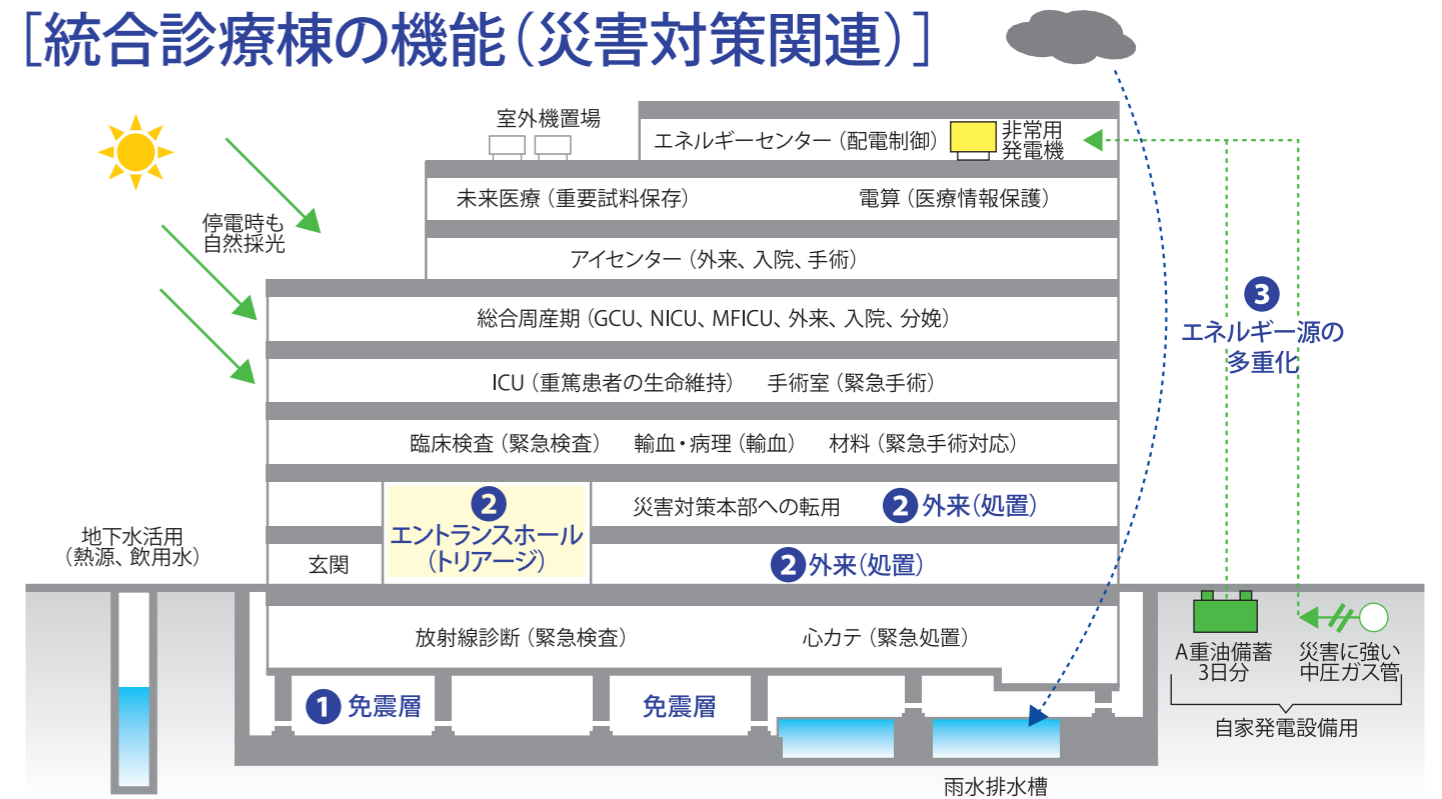


▲5階 LDR室(陣痛・分娩・回復室)



▲6階 アイセーター手術室

### [統合診療棟の機能(災害対策関連)]



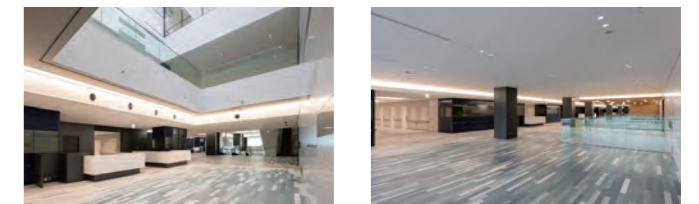
#### ① 免震構造の採用

免震構造により地震時の揺れを低減し、揺れによる建物被害の発生を抑制することで、診療機能・臨床研究機能などの病院機能を維持・継続します。



#### ② トリアージ・処置スペースの確保

災害時の傷病者の受入で必要となるトリアージスペース、処置スペース、また、それらを俯瞰できる位置に災害対策本部を設置するなど、災害時に必要となるスペースをBCP(事業継続計画)に基づき設定しています。



#### ③ 供給エネルギー源の多重化

災害時に商用電力が供給停止された場合、非常用発電機にて配電を継続しますが、既存の都市ガス(中圧ガス)をエネルギー源とする発電機に加え、備蓄燃料(A重油)をエネルギー源とする発電機を新たに2基採用することで、停電リスクに対応します。





- 1838(天保9)年 蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。  

- 1869(明治2)年 新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱により大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王寺区上本町)に政府直轄大坂病院(緒方一族主宰)を設置した。
- 1870(明治3)年 政府は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。
- 1871(明治4)年 文部省直轄となった。
- 1872(明治5)年 文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が廃止された。
- 1873(明治6)年 2月 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設し、教授局を付設した。
- 1879(明治12)年 3月 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。  

- 1880(明治13)年 3月 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府立大阪医学校を設立した。
- 1888(明治21)年 1月 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校名を大阪医学校と改称した。
- 1893(明治26)年 3月 大阪医学校産婆養成所が開設された。
- 1898(明治31)年 4月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。
- 1903(明治36)年 10月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称された。
- 1915(大正4)年 10月 府立大阪医科大学と改称した。
- 1919(大正8)年 11月 大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪医科大学となって病院もこれに準じた。

- 1924(大正13)年 10月 大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と改称した。(大阪市北区堂島浜通)  

- 1931(昭和6)年 5月 勅令第67号により大阪帝国大学が創設され、大阪医科大学を移管して医学部と改称された。  

- 1939(昭和14)年 1月 東館が増築された。
- 1945(昭和20)年 6月 看護婦養成所を厚生女子部と改称した。
- 1947(昭和22)年 10月 政令第204号により大阪帝国大学は大阪大学に改められた。
- 1949(昭和24)年 5月 国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属医院に改められた。
- 1951(昭和26)年 4月 大阪大学医学部附属医院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。
- 1952(昭和27)年 4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。
- 1953(昭和28)年 8月 大阪大学歯学部附属医院の設置(昭和26年3月)に伴い、医学部附属医院の診療科から歯科が分離された。
- 1963(昭和38)年 4月 大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護学校と改称した。
- 1964(昭和39)年 3月 本院改築第1期工事が完成した。
- 1965(昭和40)年 4月 大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置された。
- 1966(昭和41)年 4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校に専攻科が設置された。  
 12月 本院改築第2期工事が完成した。
- 1968(昭和43)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。  
 4月 大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。

- 1969(昭和44)年 4月 大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。
- 1970(昭和45)年 10月 本院改築第3期工事が完成した。
- 1971(昭和46)年 3月 給食厨房棟が完成した。
- 1973(昭和48)年 8月 本院改築第4期工事が完成した。  

- 1989(平成元年)年 3月 吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。
- 1993(平成5)年 9月 中之島キャンパス(大阪市福島区)から吹田キャンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。  

- 10月 大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。
- 1994(平成6)年 11月 特定機能病院に承認された。
- 1995(平成7)年 1月 1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。  
 3月 ポジトロン核医学診断システム棟が完成した。
- 1996(平成8)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。
- 1997(平成9)年 3月 大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。  
 7月 心臓移植実施施設に認定された。
- 1998(平成10)年 4月 肺移植実施施設に認定された。
- 1999(平成11)年 2月 膵臓移植実施施設に認定された。  
 移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。  
 12月 小腸移植実施施設に認定された。  
 病棟屋上にヘリポートが完成した。
- 2000(平成12)年 4月 診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。  
 5月 肝臓移植実施施設に認定された。
- 2001(平成13)年 1月 日本医療機能評価機構から認定を受けた。
- 2004(平成16)年 4月 国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。

- 2006(平成18)年 1月 日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
- 2008(平成20)年 1月 大阪府からの委託事業としてドクターヘリの運航を開始した。
- 2009(平成21)年 4月 地域がん診療連携拠点病院に指定された。
- 2011(平成23)年 1月 日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
- 2012(平成24)年 6月 移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移植を実施した。
- 2015(平成27)年 3月 質の高い倫理審査委員会設置病院として認定された。  
 8月 臨床研究中核病院に認定された。  
 9月 オンコロジーセンター棟が完成した。  
 臨床検査のISO認定を受けた。
- 2016(平成28)年 1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。  
 3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)に認証された。  
 9月 ジャパン インターナショナル ホスピタルズ(JIH)に推奨された。
- 2018(平成30)年 3月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定された。  
 11月 大阪府難病診療連携拠点病院に指定された。
- 2019(平成31)年 11月 小児がん連携病院に指定された。
- 2020(令和2)年 4月 ドクターカー、DMATカーを導入した。  
 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。  
 8月 大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定された。
- 2021(令和3)年 10月 感染症対応トリアージ施設を整備した。
- 2022(令和4)年 1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.2.0の認定を受けた。  
 12月 国内病院初の国際認証AAHRPPを取得した。
- 2023(令和5)年 6月 国内病院初の医療機器滅菌洗浄のISO認定を受けた。
- 2025(令和7)年 5月 統合診療棟が開院した。

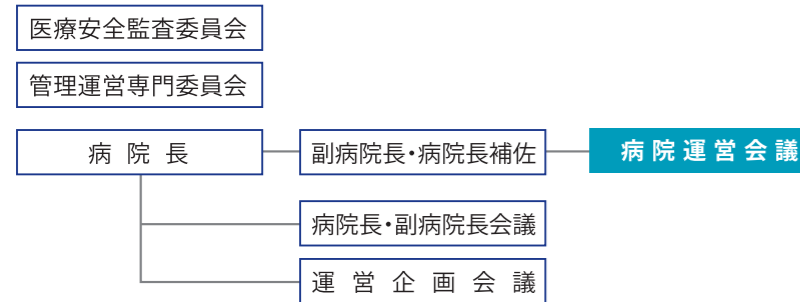




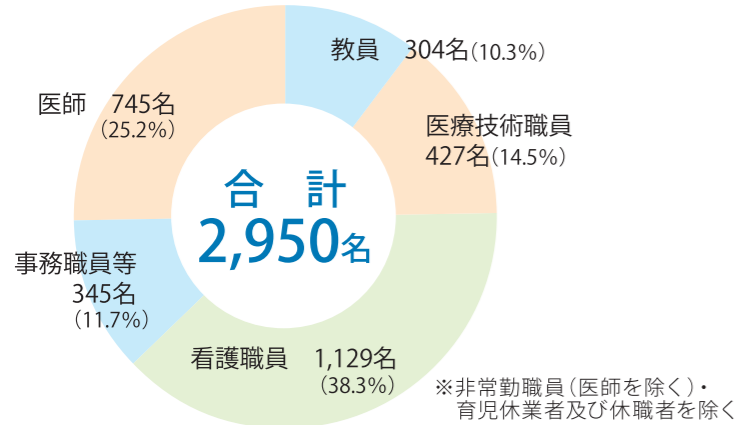
# 機構／職種別職員数／職員 (2025年5月7日現在)

## Organization Chart／Number of Staff／Faculty and Administrative Officers

### [機構]



### [職種別職員数] (2025年5月1日現在)



### [職員]

#### 管理者

病院長	教授 野々村 祝夫	病院長補佐 (中央診療施設担当)	教授 小川 和彦
副病院長 (財務・人事労務担当)	教授 坂田 泰史	(広報・中期目標・計画担当)	教授 猪阪 善隆
(医療安全・がん診療担当)	教授 江口 英利	(診療体制・教育担当)	教授 新谷 康
(地域医療・医療情報・外部評価担当)	教授 武田 理宏	(救急医療担当)	教授 織田 順
(ホスピタリティ担当)	看護部長 岩崎 朋之	(女性支援・ダイバーシティ担当)	教授 中島 和江
病院長補佐 (小児・周産期担当)	教授 北島 康司	(その他一般業務担当)	教授 土岐 祐一郎
(再開発担当)	教授 貴島 晴彦	(経営・組織改革担当)	事務部長 川村 篤
(研究・臨床研究中核病院担当)	教授 下村 伊一郎		

#### 診療部門

<b>●内科系科</b>	部門長(教授)	山本 浩一	呼吸器外科	科長(教授)	新谷 康
循環器内科	科長(教授)	坂田 泰史	消化器外科1	科長(教授)	江口 英利
腎臓内科	科長(教授)	猪阪 善隆	消化器外科2	科長(教授)	土岐 祐一郎
消化器内科	科長事務取扱(講師)	疋田 隼人	乳腺・内分泌外科	科長(教授)	島津 研三
糖尿病・内分泌・代謝内科	科長(教授)	下村 伊一郎	小児外科	科長事務取扱(病院教授)	渡邊 美穂
呼吸器内科	科長(病院教授)	西田 吉人	病理診断科	科長(教授)	森井 英一
免疫内科	科長事務取扱(病院教授)	武出 真之	<b>●感覚・皮膚・運動系科</b>	部門長(教授)	西田 幸二
血液・腫瘍内科	科長(教授)	保仙 直毅	眼科	科長(教授)	西田 幸二
老年・高血圧内科	科長(教授)	山本 浩一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長(教授)	猪原 秀典
総合診療科	科長(教授)	山本 浩一	整形外科	科長(教授)	岡田 誠司
感染症内科	科長(教授)	忽那 賢志	皮膚科	科長(教授)	藤本 学
<b>●外科系科</b>	部門長(教授)	江口 英利	形成外科	科長(教授)	久保 盾貴
心臓血管外科	科長(教授)	宮川 繁	リハビリテーション科	科長(教授)	岡田 誠司

<b>●脳神経精神科</b>	部門長(教授)	池田 学
脳神経内科	科長(教授)	望月 秀樹
神経科・精神科	科長(教授)	池田 学
脳神経外科	科長(教授)	貴島 晴彦
麻酔科	科長(教授)	吉田 健史

<b>●女性・母子・泌尿生殖科</b>	部門長(教授)	北島 康司
産科	科長(教授)	小玉 美智子
婦人科	科長(教授)	小玉 美智子
小児科	科長(教授)	北島 康司
泌尿器科	科長(教授)	野々村 祝夫

<b>●放射線科</b>	部門長(教授)	富山 憲幸
放射線診断・IVR科	科長(教授)	富山 憲幸
放射線治療科	科長(教授)	小川 和彦
核医学診療科	科長(講師)	磯橋 佳也子

<b>●救急・集中治療科</b>	部門長(教授)	織田 順
集中治療科	科長(教授)	吉田 健史
救命救急科	科長(教授)	織田 順

#### 中央診療施設

##### [管理部門]

●材料部	部長(特任教授(常勤))	高階 雅紀
●病理部	部長(教授)	森井 英一
●輸血・細胞療法部	部長(准教授)	加藤 恒
●医療情報部	部長(教授)	武田 理宏
●感染制御部	部長(教授)	忽那 賢志
●中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中島 和江
●臨床工学部	部長(特任教授(常勤))	高階 雅紀
●移植医療部	部長(特任准教授(常勤))	上野 豪久
●栄養マネジメント部	部長(教授)	下村 伊一郎
●サプライセンター	センター長(特任教授(常勤))	高階 雅紀
●卒後教育開発センター	センター長(教授)	渡部 健二
●看護部キャリア開発センター	センター長	岩崎 朋之
●高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	新谷 康
●未承認新規医薬品等診療審査部	部長(教授)	坂田 泰史
●AI医療センター	センター長(教授)	西田 幸二
●患者包括サポートセンター	センター長(教授)	猪阪 善隆
●診療支援センター	センター長(教授)	坂田 泰史
●バイオリソースセンター	センター長(教授)	宮川 繁

##### [中央診療部門]

●臨床検査部	部長(講師)	高原 充佳
●手術部	部長(特任教授(常勤))	高階 雅紀
●放射線部	部長(教授)	富山 憲幸
●集中治療部	部長(教授)	吉田 健史
●リハビリテーション部	部長(教授)	岡田 誠司
●総合診療部	部長(教授)	山本 浩一
●血液浄化部	部長(教授)	猪阪 善隆
●遺伝子診療部	部長(教授)	坂田 泰史
●化学療法部	部長(准教授)	福島 健太郎
●放射線治療部	部長(教授)	小川 和彦
●総合周産期母子医療センター	センター長(教授)	北島 康司
●高度救命救急センター	センター長(教授)	織田 順
●内視鏡センター	センター長(教授)	土岐 祐一郎
●超音波検査センター	センター長(教授)	坂田 泰史
●アイセンター	センター長(教授)	西田 幸二

#### [連携診療部門]

●脳卒中センター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●前立腺センター	センター長(教授)	小川 和彦
●睡眠医療センター	センター長(教授)	池田 晴彦
●疼痛医療センター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●生殖医療センター	センター長(教授)	北島 康司
●ハートセンター	センター長(教授)	宮川 繁
●小児医療センター	センター長(教授)	北島 康司
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	島津 研三
●呼吸器センター	センター長(教授)	新谷 康
●てんかんセンター	センター長(教授)	貴島 晴彦
●消化器センター	センター長(教授)	江口 英利
●IVRセンター	センター長(寄附講座准教授)	東原 大樹
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	北島 康司
●難病医療推進センター	センター長(教授)	坂田 泰史
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	池田 学
●がんゲノム医療センター	センター長(教授)	島津 研三
●糖尿病・肥満症センター	センター長(教授)	下村 伊一郎
●緩和医療センター	センター長(教授)	江口 英利
●腸管不全治療センター	センター長(特任准教授(常勤))	上野 豪久
●摂食嚥下センター	センター長(教授)	猪原 秀典
●アイソトープ治療センター	センター長(教授)	小川 和彦
●リウマチセンター	センター長(教授)	岡田 誠司

#### 薬剤部

部長(教授)	奥田 真弘
副部長	山本 智也
副部長(講師)	前田 真一郎
副部長	有持 潤子

#### 看護部

部長	岩崎 朋之
副部長	谷浦 葉子
副部長	鍋谷 佳子
副部長	天野 美希
副部長	家平 裕三子

#### 医療技術部

部長	藤 埜 浩一
副部長	橋田 剛一
副部長	楠本 繁崇
副部長	上野 智浩
副部長	佐藤 和彦

#### 未来医療開発部

部長(教授)	宮川 繁
副部長(教授)	保仙 直毅
副部長(教授)	武田 理宏
センター長(教授)	名井 陽
センター長(教授)	山本 洋一
センター長(特任教授(常勤))	山田 知美
センター長(教授)	中田 研

#### 事務部

部長	川村 篤	
●総務課	課長	中野 哲也
災害対策室	室長	中野 哲也
●管理課	課長	岸本 和久
●教育研究支援課	課長	吉田 寛仁
●医事課	課長	鋤崎 信男
患者サービス推進室	室長	鋤崎 信男
●再開発企画整備室	室長	榊原 章人



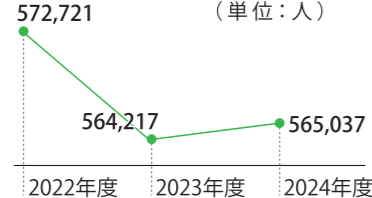
### [診療科別外来患者数]

区分	新規外来患者数 (単位:人)	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)
■総合診療科	342	2,751	11.3
■循環器内科	590	24,289	100.0
■腎臓内科	248	16,232	66.8
■消化器内科	921	42,846	176.3
■糖尿病・内分泌・代謝内科	409	39,259	161.6
■呼吸器内科	318	12,390	51.0
■免疫内科	451	23,270	95.8
■血液・腫瘍内科	279	17,344	71.4
■老年・高血圧内科	275	9,911	40.8
■感染症内科	55	677	2.8
■心臓血管外科	275	9,077	37.4
■呼吸器外科	261	8,360	34.4
■消化器外科	782	29,185	120.1
■乳腺・内分泌外科	485	17,547	72.2
■小児外科	237	5,899	24.3
■眼科	4,314	64,712	266.3
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,338	27,672	113.9
■整形外科	1,419	26,159	107.7
■皮膚科	1,050	23,113	95.1
■形成外科	379	9,047	37.2
■神経内科・脳卒中科	484	18,647	76.7
■神経科・精神科	561	18,368	75.6
■脳神経外科	739	15,752	64.8
■麻酔科	223	12,785	52.6
■産科・婦人科	1,628	27,114	111.6
■小児科	708	21,173	87.1
■泌尿器科	617	21,545	88.7
■放射線診断・IVR科			
■放射線治療科	81	14,460	59.5
■核医学診療科			
■救急救命科	113	879	3.6
■歯科	2,347	4,574	18.8
<b>合計</b>	<b>21,929</b>	<b>565,037</b>	<b>2,325.4</b>

[新規外来患者数の推移]  
(単位:人)



[外来患者延数の推移]  
(単位:人)



[一日平均患者数の推移]  
(単位:人)



### [病棟フロア別入院患者数]

西病棟						東病棟					
階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	一日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)	階	診療科	入院患者延数 (単位:人)	一日平均入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病床稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	15,118	41.4	13.3	84.3	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	16,180	44.3	14.1	84.5
12	■女性・母子・泌尿生殖器科 (泌尿器科)	15,465	42.4	10.8	87.4	12	■内科系科 (糖尿病・内分泌・代謝内科/免疫内科)	17,415	47.7	13.8	87.5
11	■外科系科 (消化器外科)	15,785	43.2	13.6	87.5	11	■内科系科 (消化器内科)	16,534	45.3	12.1	90.1
10	■外科系科 (消化器外科)	16,893	46.3	15.4	87.5	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	15,550	42.6	17.3	85.1
9	■外科系科 (心臓血管外科)	16,078	44.0	12.9	87.4	9	■内科系科 (循環器内科)	16,304	44.7	14.5	90.7
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	15,661	42.9	9.6	86.8	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科/総合診療科)	15,058	41.3	13.8	80.4
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	16,836	46.1	6.2	84.2	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,322	42.0	10.9	82.8
6	■外科系科 (小児外科)	10,401	28.5	7.7	72.2	6	■女性・母子・泌尿生殖器科 (小児科)	12,756	34.9	10.2	73.6
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	15,599	42.7	17.8	82.8	5	■女性・母子・泌尿生殖器科 (産科・婦人科)	16,189	44.4	8.9	89.5
4	■集中治療部	3,036	8.3	5.5	99.3	4	■集中治療部	5,618	15.4	6.3	76.5
3	■総合周産期 母子医療センター	10,524	28.8	8.5	70.6	3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	10,396	28.5	9.0	64.3
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	10,534	28.9	31.2	59.1
						1	■高度救命 救急センター	6,755	18.5	5.4	79.1

合計	入院患者延数 (単位:人)	326,007	一日平均入院患者数 (単位:人)	893.2	平均在院日数 (単位:日)	13.1	病床稼働率 (単位:%)	83.0
----	------------------	---------	---------------------	-------	------------------	------	-----------------	------

[入院患者延数の推移]  
(単位:人)



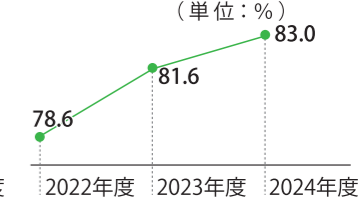
[一日平均入院患者数の推移]  
(単位:人)



[平均在院日数の推移]  
(単位:日)

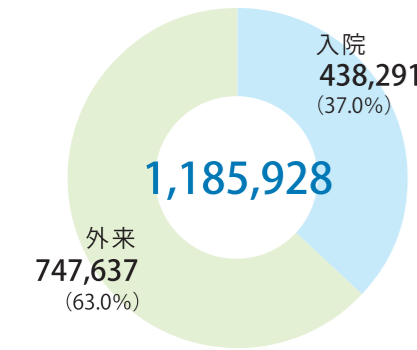


[病床稼働率の推移]  
(単位:%)





[臨床検査件数] (単位: 件)



[手術件数] (単位: 件)

■循環器内科	72
■心臓血管外科	1,130
■呼吸器外科	456
■消化器外科	824
■乳腺・内分泌外科	407
■小児外科	449
■眼科	4,238
■耳鼻咽喉科・頭頸部外科	768
■整形外科	713
■皮膚科	205
■形成外科	617
■神経科・精神科	160
■脳神経外科	466
■麻酔科	66
■産科・婦人科	871
■泌尿器科	717
■高度救命救急センター	545
■骨髄採取(血液・腫瘍内科)	7
■その他 (消化器内科、小児科、腎臓内科、放射線治療科)	148
<b>合計</b>	<b>12,859</b>

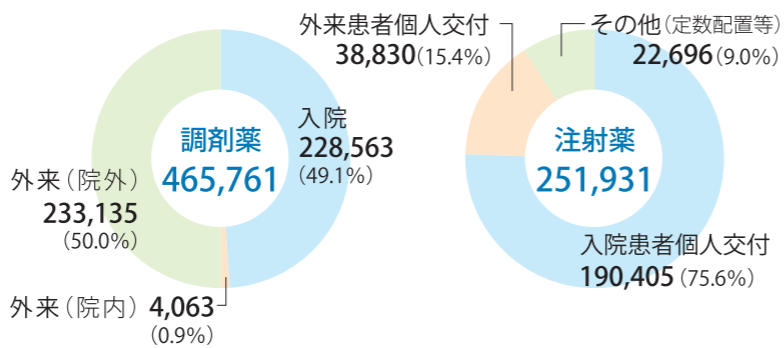
[画像検査患者数] (単位: 人)

区分	入院患者数	外来患者数	合計
■一般撮影	66,054	54,582	120,636
■特殊撮影	26,104	31,789	57,893
■核医学検査	1,129	4,277	5,406
<b>合計</b>	<b>93,287</b>	<b>90,648</b>	<b>183,935</b>

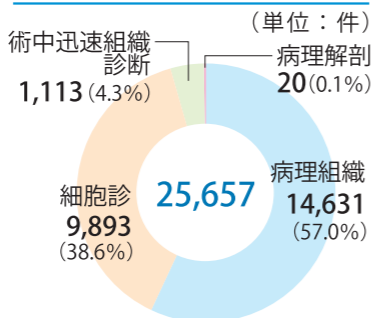
[輸血検査件数] (単位: 件)

■血液検査 ABO,Rh(D)	22,266
■その他血液型 (Rh Cc Ee 含む)	48
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	19,920
■交差適合試験	12,744
■抗血小板抗体検査	143
■寒冷凝集反応	196
■直接クームス試験	477
■間接クームス試験	360
<b>合計</b>	<b>56,154</b>

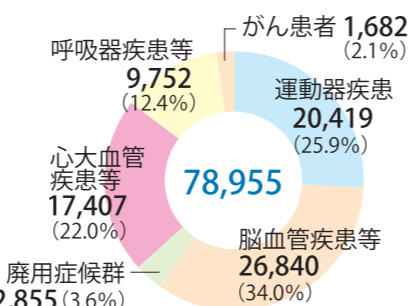
[処方枚数] (単位: 枚)



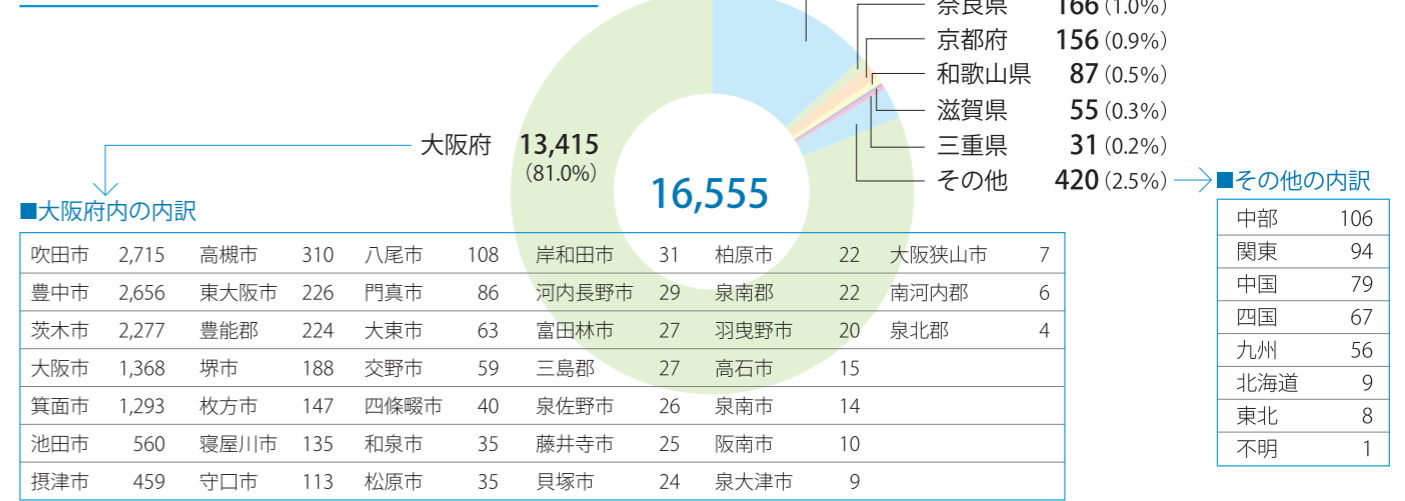
[病理業務件数] (単位: 件)



[リハビリテーション実施単位数]



[地域別入院患者数] (単位: 人)

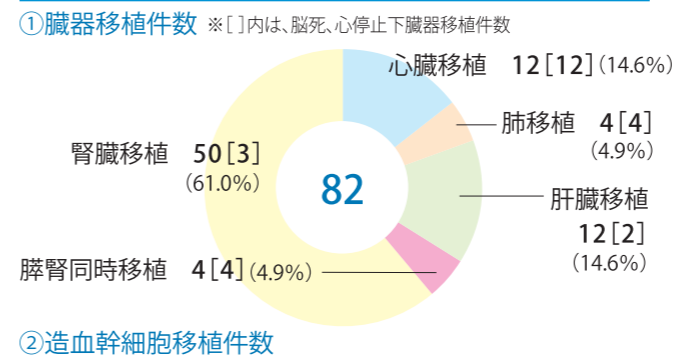


[治験件数] (単位: 件)

	新規	継続	小計	総件数	総症例数
■医薬品	67	234	301	301	1,216
■医療機器	8	24	32	32	203
<b>総計</b>	<b>*333</b>	<b>*1,419</b>			

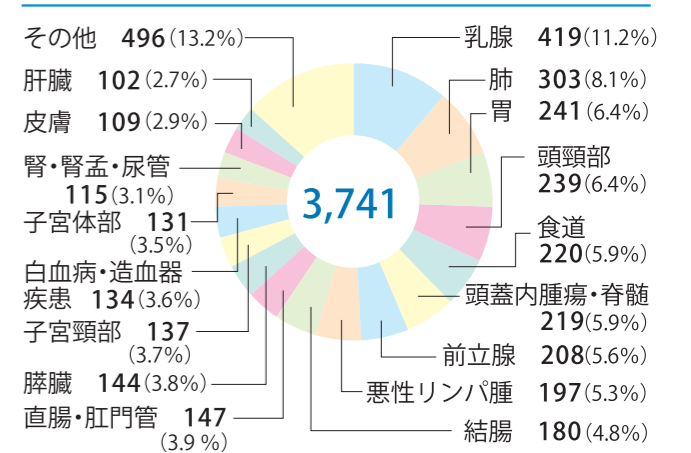
\*医師主導治験38件、409症例含む ※医療機器に再生医療等製品治験9件、28症例含む

[移植件数] (単位: 件)

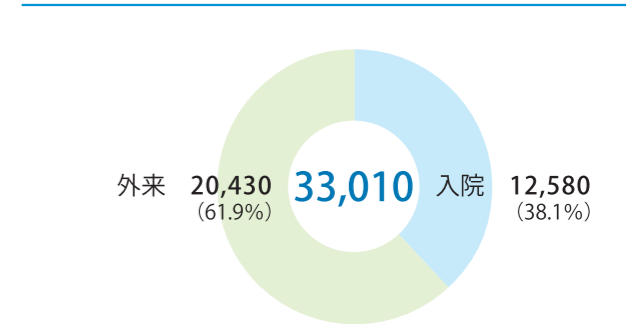


区分	成人	小児
■血縁者間移植	6	0
■非血縁者間移植	15	1
・骨髄バンク	11	1
・臍帯血	4	0
■自家移植	3	0
<b>合計</b>	<b>24</b>	<b>1</b>

[院内がん登録件数] ※2023年診断分 (単位: 件)



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位: 件)



[ドクターヘリ出動件数] ..... 145件

[分娩件数] ..... 465件

[血液浄化療法施行件数] ..... 5,650件



# 医療機関の承認・指定状況等

(2025年5月1日現在)

## Legal Authorization of Medical Services

### [医療機関の承認・指定]

- 臨床修練指定病院
- 医療法第7条第1項による開設許可(承認)
- 健康保健法による特定承認保険医療機関
- 生活保護法による医療機関(医療扶助)
- 労働者災害補償保険法による指定医療機関(療養補償・社会復帰促進等事業)
- 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律による医療機関(認定疾病医療・一般疾病医療)
- 母子保健法による妊婦乳児健康診査
- 母子保健法による指定医療機関(養育医療)
- 戦傷患者特別援護法による指定医療機関(更生医療)
- 医療法による特定機能病院
- エイズ治療拠点病院
- 大阪府災害拠点病院
- 感染症予防法による指定届出機関(基幹定点)
- 大阪府三次救急医療機関
- 大阪府肝炎専門医療機関
- 覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関
- 障害者総合支援法による自立支援医療(更生医療)
- 障害者総合支援法による自立支援医療(育成医療)
- 結核指定医療機関
- 先天性血液凝固因子障害等医療費援助事業による契約医療機関
- 障害者総合支援法による自立支援医療(精神通院医療)
- 入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
- 大阪府総合周産期母子医療センター指定
- 医療観察法による指定通院
- 大阪府肝疾患診療連携拠点病院
- 児童福祉法による指定小児慢性特定疾病医療機関
- 難病の患者に対する医療等に関する法律による指定医療機関
- 臨床教授等指定病院
- 医療法による臨床研究中核病院
- がんゲノム医療中核拠点病院
- 大阪府難病診療連携拠点病院
- 外国人患者受入れ医療機関
- 小児がん連携病院
- 大阪府小児がん拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 大阪府てんかん診療拠点機関
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
- 大阪府がん患者妊よう性温存治療実施医療機関
- 大阪府小児中核病院
- 公害健康被害の補償等に関する法律による指定医療機関

※太字は大阪府による承認指定

### [先進医療]

- 術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法  
(切除可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。))
- 着床前胚異数性検査  
不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む)が、染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)
- 流死産検体を用いた遺伝子検査
- 二段階胚移植術
- タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養
- 子宮内膜受容能検査1
- 術後のアスピリン経口投与療法  
下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)
- 膜構造を用いた生理学的精子選択術
- 上部消化管癌術後のアナモレリン塩酸塩経口投与
- 脊髄膜瘤胎児手術

# 経理状況／未来医療の推進

## Finance／Translational Research

### [収入と支出] (2024年度) ※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入 (単位：千円)

区分	金額
運営費交付金	4,529,308
附属病院収入	49,240,812
その他収入	4,600,495
合計	58,370,616

支出 (単位：千円)

区分	金額
人件費	18,721,091
医療費	25,349,351
債務償還経費	1,270,929
業務費	12,703,859
再開発等積立金	165,386
借入金返済	160,000
合計	58,370,616

### [受託研究等外部資金及び施設費] (2024年度)

外部資金受入額 (単位：千円)

区分	金額	
受託研究等収入	受託研究	1,570,665
	治験	948,975
	共同研究	96,972
受託事業等収入	受託実習生	5,821
	病院研修生	215
	その他	24,155
	共同事業	6,500
寄附金収入	48,466	
補助金等収入	1,388,612	
合計	4,090,381	

施設費 (単位：千円)

区分	金額	
施設整備	再開発事業等	40,441,442
合計	40,441,442	

### トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ (TR) を実践推進していきます。

- TRの実施件数 (2024年度)
- 新規TRシーズ支援件数：36件
- 臨床研究新規許可件数：4件 (内2件医師主導治験)

### 診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療・教育・研究のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

#### | 国際診療支援基盤整備

- 海外からの患者受入れ体制の整備
- 海外からの医療研修受入れの推進
- 国際医療ネットワーク形成

#### | アウトバウンド

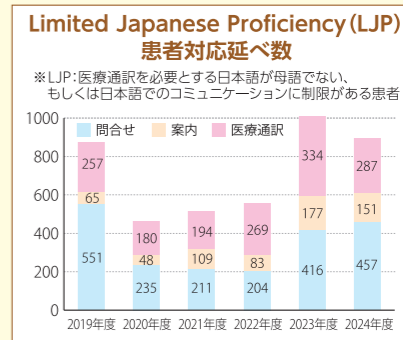
- 世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- 国際共同治験・共同研究の推進
- 日本の医療システムの海外進出

#### | 国際医療教育・研究

- 大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

#### | 国際機能評価

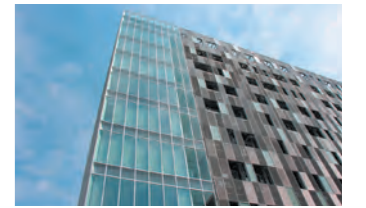
- 外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) 認証 (2022年認証更新)
- ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH) に推奨
- 大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関に選定 (2019年10月)





# 構内建物配置図／階別配置図・病床数

## Buildings Layout / Building Directory and Number of Beds



### [病棟・統合診療棟 (病床数 1,086床)]

※フェーズI病床(10床)を含む(2025年5月7日現在)

統合診療棟	
8階	機械室
7階	医療情報部、未来医療開発部 医事課
6階	アイセンター(眼科)、遺伝子診療部、移植医療部、がんゲノム医療センター
5階	総合周産期母子医療センター
4階	手術部、集中治療部(第1 ICU)
3階	臨床検査部、輸血・細胞療法部、材料部、病理部
2階	外来(E-Iブロック) 栄養相談室、授乳室、コンビニエンスストア
1階	外来(A-Dブロック)、患者包括サポートセンター 総合案内、総合受付、患者相談室、医事課事務室、守衛室、防災センター
B1階	放射線部、内視鏡センター
B2階	バイオリソースセンター、放射線治療科

病棟	
14階	レストラン、会議室、中央クオリティマネジメント部
13階	西病棟、東病棟
6階	
5階	西病棟、東病棟
4階	集中治療部(第2 ICU)
3階	東病棟
2階	東病棟
1階	高度救命救急センター、リハビリテーション部、入退院センター、守衛室、防災センター、郵便局、コンビニエンスストア、飲食店、薬局、医学専門書店、理・美容院等
B1階	薬剤部、栄養管理室

### [外来・中央診療棟]

中央診療施設等		その他
4階	感染制御部、看護部キャリア開発センター	ボランティア控室、院内学級職員室、シミュレーション室、フェーズI病床 10床、細胞培養調整施設(CPC)
3階	臨床工学部	患者図書コーナー
2階	臨床検査部	
1階	院内処方窓口	
B1階	放射線部	歯科治療室、中央病歴室、時間外薬剤交付窓口

### [医学部・同附属病院共通棟]

3階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室等
2階	病院 総務課事務室 病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室 医学部 事務室

### [オンコロジーセンター棟]

5階	がん相談支援センター
4階	がん相談支援センター 薬剤部(オンコロジーセンター室)
3階	化学療法室
2階	化学療法室
1階	受付 診察室 採血・検査室
L階	スタッフエリア 設備室

### [最先端医療イノベーションセンター棟]

4階	未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室
----	-----------------------

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の研究拠点(地上9階・地下1階建て)



# 2024年度(2024年4月~2025年3月)の動き

## Topics

### Topics 1

## 高度救命救急センターICUが大規模リニューアル

高度救命救急センターは9ヶ月半の大規模改修を経て最新仕様に生まれ変わりました。業務の効率性が大きく向上しただけでなく、ベッドあたりの面積が広がり、より充実した集中治療環境を提供できるようになりました。さらに年度末には最先端のフロンティアCTを緊急初療室(ER)に導入しました。ERへの導入はマサチューセッツ総合病院に次いで世界2番目となります。診断精度を飛躍的に向上させるとともに、最新の医療技術を学び、将来の医療に携わる学生の教育の場としても活用されます。

当センターは、重症診療の最前線として、また災害時拠点の

「最後の砦」として、引き続き地域社会に貢献できるよう尽力してまいります。



●ICU竣工記念式

### Topics 2

## ダイバーシティ推進チームの結成

2024年7月に「DEIイニシアティブ」が発足しました。DEI(ディ・イー・アイ)とは、Diversity(多様性)、Equity(公平性)、Inclusion(包摂性)の頭文字をとったものです。性別、年齢、価値観等の多様性を重視することにより、組織の創造性が高まることが知られています。DEIイニシアティブでは、医師としてのキャリアを重ねるための経験知を共有するアプリを開発しました。ここから生まれる人的ネットワークを通じて、女性医師の活躍の機会を広げるとともに、より多様な視点で患者さんに良い医療を提供し、包摂社会の実現に貢献いたします。



●DEIイニシアティブのメンバー  
(左から中島和江教授、黒田真理子特任助教、北村温美特任准教授)

### Topics 3

## 診療支援センターの新設

新しい統合診療棟の開設にともない、阪大病院の外来および入院業務が大きく変わりました。それにともない、診療支援の仕組みを抜本的に改革するため、診療支援センターを開設いたしました。外来での医療従事者との連携を強化し、事務補佐員の職務の共通化に加え一部業務は集約化を行い、事務作業の効率化を

図ります。患者さんのサポートはもちろんのこと、医療従事者の働き方改革にも貢献できるよう、医師事務作業補助者の業務を中心に、診療支援業務の充実を図ってまいります。何卒、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 大阪大学医学部附属病院へのご寄附のお願い

大阪大学医学部附属病院では、医学教育、学術研究や教育・研修の充実、および病院運営に対し、企業や個人の皆様から広くご寄附を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。

本院は、患者本位の安心・安全な全人的医療の提供、高度な医療の実践と未来医療の開発、社会・地域医療への貢献、豊かな人間性を持った優れた医療人の育成を基本方針としています。

本院の運営をはじめ教育研究の充実発展のために、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

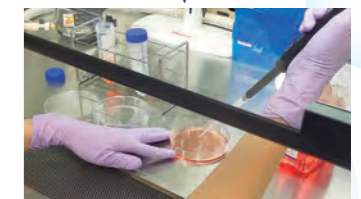
### ご寄附の使い方

大阪大学医学部附属病院へのご寄附は、教育研究に必要な機器・材料の購入や医療従事者の育成及び病院運営などに活用させていただきます。

診療—安全で質の高い医療の提供

教育—優れた医療人の育成

研究—社会に貢献する未来医療の開発



### ご寄附をいただいた方への顕彰

大阪大学医学部附属病院へのご寄附をいただいた皆様には、

- 大阪大学総長名の感謝状を贈呈させていただきます。
- ご芳名を医学部附属病院のホームページに掲載させていただきます。
- さらに、累計50万円以上のご寄附をいただいた方へ
  - ・ご芳名をプレート(※1)に記し、医学部附属病院の外来エントランスに掲示させていただきます。
  - ・500万円以上のご寄附をいただいた個人のご寄附者様にご意向を確認の上、文部科学省に紺綬褒章を申請させていただきます。

(※1) プラチナ:5,000万円以上 ゴールド:500万円以上 シルバー:100万円以上 ブロンズ:50万円以上

### ご寄附の税制上の優遇措置

ご寄附いただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。

寄附者が会社などの場合  
ご寄附の全額が損金に算入されます

寄附者が個人の場合  
その年中にご寄附いただいた合計額(総所得額の40%を限度)から2千円を差し引いた額について、所得控除を受けることができます

### ご寄附の受け入れの制限

次に該当するご寄附は、受け入れることができません。

- ご寄附を受け入れることによって財政負担が伴うもの
- ご寄附を受け入れる場合に次の条件が附されているもの
  - ご寄附により取得した財産を無償で寄附者に譲渡すること
  - ご寄附による学術研究の結果得られた知的財産などを寄附者に譲与し、または無償で使用させること
  - ご寄附について、寄附者が会計検査を行うこととされていること
  - 寄附申込み後、寄附者の意思によりご寄附の全部または一部を取り消すことができること

### ご寄附の申込み手続き

大阪大学医学部附属病院へのご寄附についてご検討いただける方は、QRコードをご参照いただくか、下記問い合わせ先までご連絡ください。お手続きについて、ご案内させていただきます。



個別の診療科へのご寄附についても  
下記問い合わせ先までご連絡ください。